



# 美魔女狩り

## 我妻千鶴子編

S M小説

1

荒縄工房 あんぷらぐど著

サンプル 試読 SAMPLE



成人向け・十八歳未満はお読みになれません。

本作品はすべてフィクション  
地名・団体とは一切関係あ  
り、団体、宗教、人種、性  
はありませ

**サンプル 試読 SAMPLE**

であり、実在する人物・  
ません。また、特定の個  
などを誹謗中傷する意図

あんぷらぐど

S M雑誌に「仲ゆうじ」名  
活動をスタート。その後、  
仕事に携わる。ネットでは  
らぐど」名でS M小説を執  
人称による告白形式の作品  
し続けている。東京在住。

**サンプル 試読 SAMPLE**

S M小説を執筆して作家  
家活動は休止し、編集の  
ふにゃふにゃ」「あんぷ  
独自の自虐的S M、一  
伝奇S M小説などを発表

目次

主な登場人物 7

母を狩ってください 9

罨を仕掛ける 37

ホテル 50

美麗 69

クラブ潜入 102

捨て身の交渉 126

調教開始 151

指を入れて 173

奉仕 196

快楽 206

サンプル 試読 SAMPLE



奥付

4  
5  
8

サンプル 試読 SAMPLE

## 主な登場人物

我妻千鶴子 あづまちづこ 美魔女と呼ばれるコメンテーター。

我妻咲 あづまえみ 千鶴子の娘。

大堀大輝 おおほりだいき 六十代の政治家。次期総裁候補。千鶴

結婚していた。

小佐田友也 千鶴子の恋人。冒険家。

中脇利恵 千鶴子のマネージャー。

天本清玄 あまもと 二一世紀産業戦略研究会主宰 大堀と

でいる。映画監督。

藤木祥司 美容師。

阿久まこと 探偵。

サンプル 試読 SAMPLE

ん

と

松葉かおる  
スタイリスト  
美麗みれい女優。  
SMの女王様。

サンプル 試読 SAMPLE



## 母を狩ってください

「あううう、お願いです、そこはあ」

白い裸体がくねっている。

薄暗い部屋。フローリングの床にマットが敷か  
いる。部屋の隅に丸いテーブルや椅子が乱雑に積  
んでいる。天井の蛍光灯はほとんど壊れている。出  
口のガラス扉には、「香港楼」という文字。その  
うはシャツターが降りている。

いくつかある窓も板で塞がれていた。

三本だけ点灯している蛍光灯が照らし出すのは  
れた中華料理店の店内だ。

サンプル 試読 SAMPLE

演 くり れ て

床はかつては翡翠のような色だったのだろうが、油とホコリで見る影もない。

そこに薄汚れたマットが敷かれ、女が横たわっている。茶色い小さなゴキブリが床を走り抜ける。

肌の上からみつく黒いロープ。

幼い体つきの女だった。明るい茶色に染めた髪を、藤木の愛撫に悶えている。

下半身に執拗な愛撫を加えていた。一時間以上ではないか。

両足も閉じた状態で縛り上げている。そのYの部分に、蠟涙を垂らし、その蠟を剥がし、指で執拗にいじり回した。肌が赤くなっているが、汗と淫液で光

サンプル 試読 SAMPLE

っている。

ローターを徐々に増やしていった。四個のローターが無毛の恥丘で踊っている。

ベリツとガムテープを引き出し、ローターの上貼りつける。腰骨まで長く貼りつけて、剥がれに  
した。

「ふあああ、きつい……」

甲高い声で女が泣く。

「音を上げるのはまだ早いぞ」

藤木は電動マッサージ器のスイッチを入れた。

ブーンとこれまでにない音がして、女はそれ  
しく反応した。経験があるのだ。  
激

サンプル 試読 SAMPLE

カリスマとさえ言われる美容師、藤木祥司の巧みな指さばきによつて、電動マツサージャーでさえも、機械の性能を超えた領域で、女を責める道具と化す。四個のローターと電マをあてられ、責められて女の体が、幾度も激しくのけぞっている。

その尻に手をやり、アヌスを指でさぐる。

「あああん、もう、だめえ。お願い、してください  
「だめだ」

藤木は目を細めて女を見下している。

「しようちゃんの欲しいんです。お願いします」

「だめに決まってるだろ」

「だってええええ」

サンプル 試読 SAMPLE

る

甘えた声は甲高い。

ほとんど家具のない部屋に反射している。

「おまえが、こんな淫乱でドスケベなマゾ娘だと  
界中の人に知ってもらおうじゃないか」

「い、いやああ」

「有名なおまえのおかあさんが、なんて言うかな  
「だめ、それはだめよ。お願いだから」

「もう遅いんだよ。おまえはおれにすべてを捧げ  
言っただじゃないか」

「お願い。わたしたちだけの間なら、なにをされ  
いいの。だけど、ほかの人にまでは……」

「うるさいぞ」

サンプル 試読 SAMPLE

も

と

世

電マがぐいつと肉をえぐり、そのあとすつと離れていく。

「あうっ、ひ、ひどい。いかせて。いかせてよお」  
「だめだ」

尻を指でいじりながら、電マを腹部から胸へ這ていく。

「あああ、しようちゃん、ずるいい」

「ずるくないよ。おまえの体は楽器みたいに、いな音を出すからさ」

「お尻は触らないで。お願いだから」

「お願いが多いな」

「だつてえ」

サンプル 試読 SAMPLE

ん

せ

「甘えるんじゃない」

「しようちゃん、意地悪ううう」

電マで、こぶりながらも柔らかな乳房をいじる。

「あううううう」

「どうだ。ここだって気持ちいいだろう」

「めちやくちやになっちやううう」

「泣けばいいさ」

「お尻は痛いからいやなのお」

「痛いからいいんじゃないか」

「お願いだから、お尻はやめて。ねえ、ホントに」

「ケツを突き出せよ」

「いやなの。ホントにいやなのお」

サンプル 試読 SAMPLE

言葉で否定しているのに、女はもぞもぞと縛られた体を裏返し、乳房に電マを押しつけられたまま、お尻を藤木に向けていく。

彼の指が三本。女の尻穴に入り込んでいた。

「好きなくせに」

「好きじゃない！」

「ホントかよ」

電マを胸にかかっている縄の間にはさんでやる。

藤木は器用に避妊具を固くなっている肉棒につ

「準備いいかな？」

「しようちゃん、やめて。お尻はやめて」

「だめだ。おまえのケツ穴がいいんだよ」

サンプル 試読 SAMPLE

た。



奥付

お読みいただき、ありがとうございました。

二〇一三年五月刊行 二〇一七年九月第二版

著作権 あんぷらぐど（荒縄工房）

荒縄工房の情報は下記サイトへ

● ブログ「荒縄工房」

● ホームページ

● 荒縄工房 SM研究室

● 今日も上機嫌ってわけないだろ

コメント、メッセージ歓迎。ご意見、ご感想、ご提案など随時、ブログで受付中

サンプル 試読 SAMPLE